



日本統計学会 会報 2013.4.25

No.
155

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(公財) 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—岩崎 学 (理事長) / 上野 玄太 (庶務理事)
鈴川 晶夫 (広報理事) / 竹内 恵行 (広報委員)
北村 佳之 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|------------------------|
| 1. 巻頭随筆…………… 三浦良造… 1 | 7. 第2回通常理事会・委員会報告 ……15 |
| 2. 2013年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第二報)
…………… 佐藤美佳・大屋幸輔・栗原考次… 3 | 8. 臨時社員総会報告 ……17 |
| 3. 第7回日本統計学会春季集会の報告
岩崎学・狩野裕・山本渉・熊谷悦生・福地純一郎… 7 | 9. 被選代議員会報告 ……21 |
| 4. 2012年統計検定の成績優秀者…………… 岩崎 学… 8 | 10. 研究集会案内 ……21 |
| 5. 統計検定(2012年11月18日実施)合格者の声
…………… 竹村彰通… 9 | 11. 新刊紹介 ……22 |
| 6. 博士論文・修士論文の紹介 ……11 | 12. 横幹連合のご紹介 ……23 |
| | 13. 学会事務局から ……24 |
| | 14. 投稿のお願い ……24 |

1. 巻頭随筆

三浦 良造 (一橋大学名誉教授)

(1) 統計思考院と古典

私が研究してきたことは、いまや古典と呼ばれる数理統計学のノンパラメトリック推測統計量の漸近理論とロバスト性だ。最近は統計数理研究所統計思考院のメンバーにしてもらっているので、刺激を受けながら古典的(セミ)ノンパラメトリックな形で偶然誤差項を扱う線形回帰モデルと順位統計量に基づく推定量の研究を続けている。これを金融市場の株価分析に使いたい。また、統計数理セミナーなどに時々出席し、若手の方が古典的数理統計学を勉強しておられればもっとよいことができるのではないかとと思うことがある。近年好んで訪問するチェコのカレル大学数理統計学科では古典的理論も現代的計算統計も共に教えるし研究もしている。バランスが良いなと思っていたところ、統計数理研究所が学術交流協定を締結されたので昨年3月は勇んで合同イベントに参加し

た。こういう刺激を受けて昔考えた問題を iid から弱い依存性がある場合への拡張を試みたりしている。

ところで、近頃の研究集会でノンパラメトリックと題されているのは、密度関数が未知の場合にそれを推定しながら尤度関数を扱うだけでそこから現れる統計量がどういう関数なのかを論じてはいないように見受ける。順位や順序統計量などはほぼ見かけなくなったが、“なんと味気ない”と思ってしまう。

話しは跳ぶが、自分が定義した統計量を組み立ててある程度分析に使えないかと目論んでいる。それは確率過程の軌跡の汎関数(統計量)である。ブラウン運動の場合は、すでに経験分布、順序統計量、順位統計量に対応するものを定義し確率分布も得た。これらは数理ファイナンスではエキゾチックデリバティブの一つとして使われているが、

作業内容としては確率過程の統計量の確率分布論にはかならない。ところが、最も基本であるブラウン運動を観測する場合に、この量を確率過程として扱うとマルコフ性を持たないので、なんとかならないものかと思案六法である。さらにもう一つ、ここでいう確率過程のノンパラメトリック統計量の特徴は確率過程の値だけでなく時間軸の値も対応する情報を持つということ（時系列なら当然か？）。ルベグ積分の可測集合を扱うような議論に似ているが、観測における時点の集合は、軌跡ごとに異なる情報（ノンパラメトリック統計量に対応する情報）を持つのでそれを推論に使えないかなどと考えたりする。これを集合族の話に仕立てるのだ。

（２）金融戦略・経営財務コースと社会人の統計分析学習

「ビッグデータ」が話題になっているが、統計学会が統計資格試験を導入し、さらに学校教育でも統計教育に力を入れる様子であり、これが今の世間全般の傾向なのかと大いに楽しみにしている。evidence based decision/policy making と云うタイトルのプロジェクトがあり私も参加したいと思っている。（情報開示のもとでは民主主義の根本だと思っているので）日本社会の中で統計分析が正当に普及し活用されるようにと云う趣旨には大賛成だ。私自身は学校教育を一通り修了した社会人を対象にした活動も盛んに行うべきだろうと思っている。そこで、私自身が経験した社会人大学院の様子を振り返ることにしよう。

一橋大学大学院国際企業戦略研究科金融戦略・経営財務コースの創立とデザインに関わったが、そこでの授業科目「データ分析」を担当した。この修士コースは次の３つの要素からなる。（１）「研究課題」は学生が社会人経験の中で遭遇した問題を入学時に述べる。（２）「授業科目」はファイナンスの経済学的理論、工学的理論、統計理論と分析手法、つまり学生の研究課題と研究に必要とされる理論と方法を提供する。学生はそれを学習し、（３）「修士論文作成とゼミ」では各自が自

分の研究テーマに関する論文を読み分析作業を進める。データ分析の授業はいずれ修士論文でデータ分析を行うという想定のもとに、教室で金融と財務・経営のデータを統計分析ソフトウェア（JMP）を使って分析しながら、統計モデルの解説、分析結果の読み取り方・考え方を説明する。この修士コースでは、全教員が“計量的方法を重んじる”という方針を共有しているので学生は熱心に頑張るし、論文を仕上げた喜びは大きい。

ここで教員として分かったことは、（a）学部学生時代に履修した統計学の内容は大多数の人が忘れていているという実態である。しかし、パソコンを使って分析し学部で行う統計学の復習を兼ねて一標本、二標本、単純線形回帰と進める。これを５週間で終える。後は多標本、多重線形回帰、ロジスティック回帰、主成分分析、判別分析など。年度によって全部やれないこともあるが、15週間でもかなりのことができた（パソコンソフト JMP を使う効果）。（b）大多数の人は確率分布論と数学的証明をやりたがらない。数学的な証明や厳密性は授業では少し触れるだけだが、しかし、分かるレベルの人には資料を渡して丁寧に勉強してもらおう。従って、言葉を使って説明する。相手がどのような理解の仕方をするのかが分かれば（宿題を多数回出すことの効果）、言葉とパソコンソフトの作業で（数学無しでも）かなり分かってくれる。手順を教えるだけでなく、なぜそれをするか、なぜそういう風に結論できるかの【なぜ】を分かってもらうことに腐心する。（c）パソコンソフトを使う作業には、（宿題のプレッシャーもあり）大多数の人が積極的に参加する。学生は統計学者になる人たちではない。数学が含まれていても自分で勉強を進められる人、こちらが手伝えれば進める人、それがなかなか困難な人という三通りの学生がいる。一般人社会も同様だろう。それぞれのタイプの人がどういう分かり方をするかを見て取って、データと分析方法の考え方、分析結果の読み取り方を（中間と期末試験はここに重点を置く）、分析の試行錯誤に付き合いながら相手に分かってもらおう。単一の実際のデータセットを使

って、いろいろな切り口で分析してみて、それぞれ何が見えるかを試みる趣旨を立てたが、それに見合うデータを作ることは容易ではなかった。で

も、株価、金利、企業財務のデータなどでかなりのことが賄えた。楽しく意義ある時間だった。

2. 2013年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

運営委員会委員長 佐藤美佳（筑波大学）
実行委員会委員長 大屋幸輔（大阪大学）
プログラム委員会委員長 栗原考次（岡山大学）

今回で12回目になる2013年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします。今大会も統計関連学会連合に属する全ての学会の共催により開催する運びとなりました。大阪府北部にある待兼山とよばれる丘陵に位置する大阪大学豊中キャンパスが大会会場となっております。本大会の第1日目（9月8日（日））はチュートリアルセッションと市民講演会を開催いたします。一般講演などは2日目以降（9月9～11日）に開催します。懇親会は、豊中キャンパス内のレストランを会場として予定しております。

この第二報では、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション、コンペセッションなどの概要を項目ごとにご紹介いたします。今後、連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2013/>

に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので、ご覧ください。

1. 大会日程、開催場所、各種受付期間

開催日程：9月8日（日）から11日（水）までの4日間

9月8日：チュートリアルセッションと市民講演会（大阪大学豊中キャンパス）

9日～11日：本大会（大阪大学豊中キャンパス）

共催：応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会

懇親会：9月10日（火）18：00～（予定）豊中キャンパス内のレストランを会場として予定

講演申込：5月8日（水）9：00～6月5日（水）17：00

原稿提出：6月11日（火）9：00～7月9日（火）17：00

事前参加申込：7月18日（木）9：00～8月20日（火）17：00

2. 講演の申込

講演には次の種類があります。

- ・一般講演
- ・企画セッション講演
- ・コンペティション講演

申込み方法は、すべての講演に共通の事項と種類ごとに異なる事項がありますので、ご注意ください。

（1）すべての講演に共通な事項

講演をご希望の方は、上記ウェブページからお申込み下さい。これ以外の申込み方法はありません。ウェブページ上で、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」のいずれかを選択して下さい。原則として、講演者が申込んで下さい。ただし、「企画セッション講演」については、オーガナイザーが申込んでください。

（2）「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申込み下さい。ウェブページ上の講演申込み手順にしたがって申込みをして下さい。プログラム編成の際の参考にしますので、最大3個までのキーワ

ードを、重視する順にご選択ください。また、講演者（連名講演者を含む）のうち、少なくとも1名は共催6学会のいずれかの会員であることが要件です。

（3）「企画セッション講演」に関わる事項

各セッションのオーガナイザーが、セッション内の講演全件を申込みください。

（4）「コンペティション講演」に関わる事項

コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回で11回目を迎えます。参加資格は、以下のいずれかの条件を満たす方です。

（a）2013年4月1日時点で30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生をふくむ）

（b）講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢は問いません）

連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方で、講演の申込時点で共催6学会のいずれかの会員である必要があります（ただし、申込と同時に入会手続きする方もふくみます）。審査は、数名の審査委員による5段階評価にもとづく投票で実施する予定です。選考はプログラム委員会で行います。審査では、研究内容とともに、研究発表のプレゼンテーションについても評価します。発表者が十分に準備・工夫し、充実したプレゼンテーションであることを期待しています。原則として、最優秀報告者1名、優秀報告者3名程度を選考します。コンペセッションは9月9日・9月10日に開催し、9月10日の夕刻の懇親会において表彰式を行う予定です。

3. 講演報告集用原稿の提出

報告集用の原稿はA4サイズで1ページです。インターネット経由で電子ファイル（PDF形式）を提出していただきます。「1. 大会日程、開催場所、各種受付期間」を参照の上、原稿提出期間を厳守してください。ご希望の方は、報告集用原稿とは別に、ウェブページに掲載する詳細論文を

受け付けます（A4サイズ、最大10ページまで、PDF形式、ファイルサイズは1MB以内、フォント埋め込み）。論文ファイルをメールによりプログラム委員会宛

submission2013@jfssa.jp

にお送り下さい。報告集用原稿および詳細論文の執筆要領につきましては、連合大会ウェブページ（<http://www.jfssa.jp/taikai/2013/>）をご覧ください。

「企画セッション講演」の報告集用原稿はオーガナイザーが集約してご提出下さい。したがって、企画セッション講演者は、最終的な原稿提出が締切に間に合いますようにオーガナイザーに原稿をお送り下さい。

講演報告集は大会当日にお渡しします。

【注意】報告集は、本大会ウェブページにて期間限定で公開予定です。公開を希望しない場合には、報告集用原稿の提出時に、その旨をご指示ください。

4. 企画セッションのご案内

学会や個人から申請のあった17件の企画セッションが予定されております。テーマとオーガナイザーの氏名、所属は以下の通りです。テーマのねらいや講演者・講演タイトルなどにつきましては連合大会のWebページをご覧ください。

なお、企画セッションの運営はオーガナイザーに一任しておりますので、企画セッションについてのご質問がございましたら、直接オーガナイザーにお問い合わせ下さいますようお願い致します。企画セッションの日程はプログラム作成時に決定致します。

企画セッション名とオーガナイザー（敬称略）

- 1) 日本分類学会シンポジウム：クラスタリング研究の新展開 足立浩平（大阪大学）
- 2) 日本計量生物学会シンポジウム：医学分野における統計教育のあり方 松山裕（東京大学）
- 3) 日本計量生物学会 奨励賞受賞者講演 手良向聡（金沢大学）

- 4) 日本統計学会 会長講演 岩崎学 (成蹊大学)
- 5) 日本統計学会 各賞受賞者記念講演 岩崎学 (成蹊大学)
- 6) 応用統計学会 学会賞受賞者講演 大西俊郎 (九州大学)・黒木学 (統計数理研究所)
- 7) 日本計算機統計学会 企画セッション：計算機統計学からのゲノムデータ解析 富田誠 (東京医科歯科大学)
- 8) 確率微分方程式モデルの金融・保険数理統計 内田雅之 (大阪大学)
- 9) 確率過程と計算統計 吉田朋広 (東京大学)
- 10) 時間・空間・時空間における事象系列研究の新展開 庄建倉 (統計数理研究所)
- 11) スポーツ統計と統計科学の融合 竹内光悦 (実践女子大学)・酒折文武 (中央大学)
- 12) ソフトウェアセッション (デモセッション) 竹田裕一 (神奈川工科大学)
- 13) 福島第一原発事故被害地域における疫学データの調査・解析・オープン化 古谷知之 (慶應義塾大学)
- 14) バイズのアプローチが役に立った実践例 繁榊算男 (帝京大学)
- 15) 統計教育における高大連携 藤井良宜 (宮崎大学)・牧下英世 (芝浦工業大学)
- 16) 統計関連学科・統計科学専攻設置に関する国内外の動向 山口和範 (統計教育大学間連携ネットワーク・立教大学)
- 17) 大学における統計教育の課題と標準カリキュラム策定に向けて 中西寛子 (統計教育大学間連携ネットワークカリキュラム策定委員会委員長)

5. チュートリアルセッションのご案内

下記の2つのテーマでチュートリアルセッションを開催いたします。2つの会場で並行して開催しますので、どちらかをお選びください。参加費については「7. 参加申込と大会参加費」をご覧ください。

日時：2013年9月8日(日)13：00～16：00

場所：大阪大学豊中キャンパス

テーマA：統計的グラフィカルモデルの展開

講演者：原 尚幸 先生 (新潟大学)

時間：13：00～16：00 (3時間)

開催趣旨：このセミナーでは、近年標準的な統計手法となりつつあるグラフィカルモデルにおける統計的推測問題の基本的な事柄を解説するとともに、近年の展開を概観する。グラフィカルモデルは、統計学、機械学習、人工知能などの異なるバックグラウンドで発展してきたモデルであり、さまざまな側面を持つ。本セミナーでは、主として統計学・多変量解析の視点に立ち、グラフィカルモデルの推測問題を考察していく。まず前半部では、Lauritzen (1996) の教科書にしたがって、最も基本的なモデルである無向グラフのグラフィカルモデルを導入し、その分布理論、推測理論、最尤推定量の計算アルゴリズムなどに関連する話題について、関連するグラフ理論も含めて解説をおこなう。後半部では、無向グラフのモデルから有向グラフのモデル、chain graph のモデルなどへ一般化や、計算代数統計学、高次元統計学などとの接点など、近年におけるグラフィカルモデル研究の展開をいくつか紹介する。

テーマB：「ビッグデータと統計解析」

講演者：水田 正弘 先生 (北海道大学)、南 弘征 先生 (北海道大学)

時間：13：00～16：00 (3時間)

開催趣旨：本チュートリアルでは、近年、注目されているビッグデータに関する状況を概観するとともに、ビッグデータの活用には有効な統計的手法について紹介する。ビッグデータは、単に「大きなデータ」ではなく、「従来のデータベースシステムの処理能力を超えたデータで、とても大きく、すばやく変化し、通常のデータベースのフレームに合わないデータ」と位置づけることが多い。センサー技術やストレージ技術をはじめとする情報技術の発展によりビッグデータを活用できる時代となり、ビジネスをはじめ

とする多くの分野で、実際的な成果が得られている。しかし、統計学の立場から考えると単純な手法しか利用されていないことが多い。せっかく収集したビッグデータから価値のある情報を導き、適切な判断を下すには、統計学の分野で成熟した経験や技術が有効である。本テーマでは、前半で、ビッグデータの定義と現状について紹介する。後半では、実際のシステムやツールについて述べる。ビッグデータはバズワード（buzzword：説得力のある言葉のように見えて、実は定義や意味があいまいなキーワード）であり、用語としては消えてゆくかもしれない。しかし、統計科学においてビッグデータ（といわれているデータ）の解析の意義は変わらないことを強調したい。

6. 市民講演会のご案内

下記の2つのテーマで市民講演会を開催いたします。参加費は無料です。

日時：2013年9月8日(日)16：30～18：00

場所：大阪大学豊中キャンパス

テーマ1：保健統計データの見方－健康で長寿な社会をめざす統計－

講演者：村上 義孝 先生（滋賀医科大学）

時間：16：30～17：15（45分）

概要：国や自治体が実施する保健・医療・福祉分野の様々な施策や活動は、保健統計とよばれるさまざまな統計調査の結果に基づいて計画・実施・評価されています。保健統計の活用例としては、平均寿命や出生率をはじめとして毎年のようにマスコミ報道されるものや、メタボリック・シンドロームの割合など最近話題にのぼっているものがあります。保健統計を正しく理解することは、わが国の健康課題や保健・医療福祉分野の施策や各種活動状況を理解する上でとても重要なことなのです。

今回の市民講演会を通じ、みなさんが健康で長生きできる社会を目指して保健統計がどのように活躍しているか、保健統計から得られたデ

ータをどう読むか、どう日々の生活に役立てられているか、などについてお話したいと思います。主な内容としては、平均寿命・健康寿命について、喫煙・肥満などの病気の原因となるものの年次変化、保健統計にまつわるエピソードなどをお伝えしたいと思います。

テーマ2：統計教育大学間連携ネットワークが目指すビッグデータ時代の人材育成

講演者：美添 泰人 先生（青山学院大学）

時間：17：15～18：00（45分）

概要：統計教育大学間連携ネットワークは、文部科学省の事業の一環として採択され、8大学、統計関連学会連合に参加する6学会と、6団体が協力して実施する活動の場として設立した組織です。今後の我が国のイノベーションを推進するには、新たな課題を自ら発見し、データに基づく数量的な思考による課題解決の能力を有する人材が不可欠です。そのような「統計的なものの見方と統計分析の能力」は文系理系を問わず必要とされることから、海外では大学において組織的な統計教育のもとに人材を育成しています。国際競争力の観点からも、我が国でも大学における体系的な統計教育の一層の充実が喫緊の課題です。

このような背景の中で「ビッグデータ時代の人材育成」と取り組むために、私たちは、課題解決型人材育成のための標準的なカリキュラムと教授法を整備し、学習達成度を客観的に評価するために「統計検定」の仕組みを利用することによって、統計教育の質保証制度を確立することを目指しています。

本講演では、この取組の概要と初年度の活動内容を紹介し、合わせて海外において統計教育という課題とどのように取り組んでいるかをお話します。

7. 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため、ウェブページからの事前申込にご協力ください。受付期間につ

いては「1. 大会日程, 開催場所, 各種受付期間」を参照してください。事前申し込みの場合、参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費（報告集代を含む）事前申し込み当日受付

	事前申し込み	当日受付
会員（共催6学会の会員）	7,000円	9,000円
学生（会員・非会員を問わず）	3,000円	7,000円
学生以外の非会員	13,000円	16,000円

チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）

	事前申し込み	当日受付
会員（共催6学会の会員）	3,000円	4,000円
学生（会員・非会員を問わず）	2,000円	4,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

懇親会参加費

	事前申し込み	当日受付
一般（会員・非会員を問わず）	5,000円	6,000円
学生（会員・非会員を問わず）	3,000円	4,000円

【注意】

1. これまでの大会と同様に、事前申込のキャンセルと変更は認めません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料を後日送付いたします。
2. 講演申し込みをされた方も参加申込みの手続きが必要です。
3. 市民講演会は無料です。
4. 共催6学会の会員以外の方が、企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります。

8. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。大会会場となります大阪大学豊中キャンパスへは、阪急電車の場合、宝塚線石橋駅（特急・急行停車、梅田から20分位）下車、徒歩約15分、大阪モノレールの場合、柴原駅（大阪空港から2駅目、あるいは千里中央駅から大阪空港方面へ2駅目）下車、徒歩約15分です。

宿泊に関しては、大阪空港周辺、千里中央に若干の宿泊施設はございますが、交通の便、宿泊施設の数を考えますと、JR 大阪駅、阪急梅田駅周辺の宿泊施設をご利用されることをお勧めいたします。

3. 第7回日本統計学会春季集会の報告

岩崎 学（日本統計学会理事長）

狩野 裕・山本 渉・熊谷悦生（企画・行事担当）

福地純一郎（春季集会実行委員長）

標記の集会が2013年3月3日(日)に学習院大学（東京都豊島区）で開催されました。今回の集会では、5つの口頭発表セッションとポスターセッションが組織され活発な議論が交わされました。午前にスケジュールされた統計教育のセッション

（オーガナイザー：美添泰人氏、青山学院大学）は、大学間連携共同教育推進事業と共催の形で実施され、日本、ドイツ、米国における大学間連携による統計教育について報告されました。なお、全ての講演は英語で行われました。

ポスターセッションは昼休みをコアタイムとして開催され、学生や若手研究者が14件の発表を行いました。コアタイムの前にはポスター発表者同志がお互いに説明しあう等、発表者同志の交流がありました。コアタイムでは、来場者との熱心な議論により有意義な研究交流がなされました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は木下亮氏（大阪大学 大学院経済学研究科 D2）と王文傑氏（京都大学 大学院経済学研究科 D3）の二名に、学生優秀発表賞は竹内琢磨氏（京都大学 大学院情報学研究科 M2）と森川耕輔氏（大阪大学 大学院基礎工学研究科 M1）の二名に授与され、懇親会において竹村彰通会長より表彰されました（氏名は五十音順）。

午後は2つのセッションを並行し合計4つのセッションが実施されました。以下にオーガナイザーとセッション名を挙げます。

青嶋 誠（筑波大学）「高次元データ解析の理論と方法論：最前線の動向」

濱砂敬郎（九州大学）「政府統計におけるモラルハザード」

赤司健太郎（学習院大学）「中長期パネル分析の諸問題と展望」

川崎 茂（日本大学）「人口データと地理情報の融合による空間統計の未来」

セッション終了後、同大学の創立百周年記念館にて懇親会が開催され、セッションの議論の続きや会員相互の親睦・情報交換を行うことができました。なお、集会と懇親会の参加者はそれぞれ169名（158名）と66名（59名）でした（カッコ内は昨年度実績）。授賞の儀が懇親会の席で行われることもあって懇親会へ多くの学生が参加するようになり、学生と教員との懇親も進んでいるように思いました。また、今回、受賞者から受賞理由を求められ、学生の関心の高さも感じました。

日本統計学会のオフィシャルな会合は秋の連合大会と春季集会です。連合大会は並行セッションが多く統計学研究のデパートと言えます。春季集会は単一セッションまたは多くても並行セッションは二つで、自身のテーマや関心から多少外れた研究発表でもじっくりと聞くよい機会となっています。

最後に、本集会を成功裏に導いて下さった方々に感謝を申し上げます。次年度の春季集会は同志社大学今出川キャンパスで開催予定です。春季集会では会員の皆様からのご提案をお待ちしています。

春季集会 URL：

<http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/07/JSSspring2013.html>

4. 2012年統計検定の成績優秀者

岩崎 学（日本統計学会理事長）

2012年11月18日に第2回目の統計検定が1級も含めた6試験種目で行われました。以下に、各試験種目別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1級（（ ）は選択した応用分野）

最優秀成績賞（S）：小野裕亮（医薬生物学）、藤

田 卓（理工学）、松田孟留（理工学）

優秀成績賞（A）：上坂 薫（医薬生物学）、住友雅幸（社会科学）、高部 勲（理工学）、竹内維斗文（社会科学）、鶴田 大（社会科学）、中野良一（人文科学）

2級

最優秀成績賞（S）：小野裕亮、片峰彬宏、川辺真、島本健一、中西 渉、中野良一、西尾優子、

野上孝也，橋本洋一，増田龍陪

優秀成績賞（A）：荒川卓真，伊藤 豊，今井章弘，加藤翔太，川田米太郎，清川真也，鈴木敦史，高橋利之，高部 勲，津島啓太，西村達郎，橋本耕一，星野泰啓，真島崇行，溝口将史，宮口航平，本山慶光，

3級

優秀成績賞（A）：相川雅弥，生田信雄，今井紀子，岩上 俊，小倉郁史，柿崎慶太郎，神田 毅，工藤希美，黒田玲子，黒谷美和子，桑島義行，坂口美乃里，下方郷嗣，日笠雄一郎，松本英明，依田朗裕，脇田俊幸

4級

最優秀成績賞（S）：神田 毅

優秀成績賞（A）：松本直也

専門統計調査士

最優秀成績賞（S）：植木貴之，栢原匡裕，鈴木悦造，高橋正剛，山田裕介

優秀成績賞（A）：川島史江，佐藤聡司，佐藤大介，田中康一朗，谷沢溪介，根本 学，村井雅子

統計調査士

最優秀成績賞（S）：浦 大征，柿田耕嗣，栗村信一，佐俣桂子，鈴木悦造，蓮井久美子，山田裕介

優秀成績賞（A）：植木貴之，川島史江，佐藤聡司，佐藤大介，鈴木大介，高橋正剛，田中昭博，丹野一成，堤 彰子，富澤 茂，根本 学，林美智代

5. 統計検定（2012年11月18日実施）合格者の声

竹村 彰通（日本統計学会会長）

今号と次号にわたり，2012年統計検定の合格者よりお寄せいただいた声を掲載します。

1級（社会科学）合格

鶴田 大 さん（株式会社新生銀行，一橋大学大学院国際企業戦略研究科1年）

統計検定は，大学院に掲示されていたポスターで知りました。統計の知識の力試しと思い，受験してみました。

統計応用は，理工学分野と迷いましたが，社会科学分野を選びました。私は金融機関で働いていますが，使う分野は社会科学分野と理工学分野のそれぞれ一部であったため，より過去に学習したことがある分野を選びました。一方で，それぞれ普段自分で使わないような分野もあり，範囲が非常に広いと感じました。

受験に当たっては，大学院で履修していた統計の授業のテスト勉強と合わせ復習しました。それで足りない範囲は，統計の教科書で詰め込みまし

た。また HP にアップされていた問題例を解いてみました。特にそれぞれの手法を理解することに注意しました。一方で，範囲が広がったため，統計応用の一部の範囲は学習できませんでした。

実際の受験時，難しいと感じましたが，知識の応用を問われ，解いていて面白かったです。また，確率分布に関する知識も重要だと感じました。今後，The Royal Statistical Society の Graduate Diploma が日本でも実施されれば，受験してみたいと思います。また，統計検定自体，受験するインセンティブを今後高めていただけると面白いと思いました。

2級 合格

鈴木敦史 さん（株式会社 QUICK）

加齢とともに衰える頭脳になにか活をいれたいと思っていた時，たまたま，ある新聞紙上で統計検定試験の記事を見つけトライすることを決めました。

大学時代、確率・統計は好きな分野でしたが、実際に2級対応テキスト「統計基礎」にあたってみると、かなりの部分を忘れてしまっており、基礎的な事項から復習することになりました。具体的には、息子が大学の教養課程で使用した教科書を通読し、2級対応テキスト「統計基礎」の演習問題や過去問を実際に解くなどして準備を進めました。

偶然にも、試験会場は息子が昨年まで講義や試験を受けていた教室でしたので、(統計学を学ぶ者としてはふさわしくない非科学的な考えですが)根拠なくうまくいくのではないかと思い込んで受験しました。しかし、やはり、私にとっては難問がいくつかあり、歯ごたえのある試験でした。試験後には、統計検定センターのHP上に掲載された解答を使って復習もしましたが、合格できるかどうかと不安に思っていました。今回の受験を通して、統計学の基礎を復習できただけでなく、優秀者として表彰いただいたことは、望外の喜びです。

先日、「統計学が最強の学問である」という本を書店で見つけましたが、私が従事する金融関連の分野でも、ビッグデータという言葉がバズワード(buzzword)になるなど、ビジネス関連データを分析するために、統計学が強力で実践的なツールとして、ますます重要になっていくことは明らかです。英語とならんで統計学は、どんな分野を専攻するか、あるいは、どんな職業につくかに関わらず、誰もが習得すべき重要なリベラルアーツの1つになることは確かだと思っており、統計学の啓蒙のために統計検定試験が広く普及することを願うものです。

私も、今回のことを励みとして衰える脳に活をいれ、是非、1級にも挑戦したいと思っております。

3級 合格

坂口実乃里 さん(長野県屋代高等学校1年)

担任の数学の先生から統計検定の話を聞きました。ちょうどその頃授業で「データの分析」の単

元を習ったばかりで復習になるかなと思ったのと、将来働く際に統計学の知識が必要になるだろうと思ったのもあり、3級を受験することにしました。

勉強には学校の教科書、問題集、先生からいただいたプリントを使用しました。自信のなかった分散や標準偏差の計算などを中心に勉強しましたが、それだけではなくその結果から何が言えるのかを考えることもしていました。

このとき統計グラフコンクールで作品づくりをしたときに、データからどんな提案ができるかを考えたことが活かされたなと思いました。

3級に合格したことでさらに上の級に挑戦し、統計の知識を役立てていきたいと考えています。

3級 合格

松本英明 さん(地方公務員)

自治体政策の最終決断は政治が行います。公務員(行政)はその選択をよりよいものにするため、様々なデータを政治に提供します。このデータが統計になります。結局は政治が利益誘導で決断するとも言われますが、決してそんなことはありません。民間企業と同じように自治体でも政策の起点は統計になります。公務員にとっても統計の知識が大変重要なものになります。

しかし、経験的に言うと公務員(特に市町村職員)は統計に強いとは言えないような気がします。実は私もそのひとり…。文系の学部を出た私が数字に弱いことは言うまでもありません。そこで、何とか統計に関する知識を得ようとインターネットを検索していたところ、この統計検定に辿り着きました。

とりあえず3級からやってみようと受検を決意。公認テキストを中心に勉強をはじめた。3級では統計の基礎的な部分が多く、理系の知識がなくても戸惑うことなく学習できました。

どの職場でも現状分析や政策立案をするために統計知識が必要です。公務員としてよりよい住民サービスを目指すために、この統計検定は非常に有効だと感じました。特に市町村職員の方には是非受検をお勧めしたいと思います。私自身も、次

回以降、2級さらには1級合格を目指しスキルアップを図るとともに、自己の職務に統計の知識を活用していきたいと思います。

統計調査士・専門統計調査士 合格

鈴木悦造 さん（滋賀県庁）

公益財団法人・統計情報研究開発センター（Sinfonica）が発行する専門誌「ESTREL A（エストレーラ）」の統計検定に関する特集を見かけて、検定の実施を知りました。統計に携わる事務を担当しており、統計調査に対する自分の理解や知識を試すために受験しました。

統計調査に関しては実査および加工分析の双方について経験しているため、試験対策は特に行いませんでしたが、出題範囲（項目）を確認するとともに、問題例や過去問題をチェックしました。

実際の試験では、専門統計調査士および統計調査士ともに、前回（第1回）より問題の難易度が

少し上がったような気がしましたが、範囲が多岐にわたり、より実務的なものとなり、資格試験としてふさわしい内容であったと思います。

試験結果は、自己採点ではケアレスミスもあったのですが、専門統計調査士および統計調査士のいずれもSランクで合格することができ、自分のレベルを再確認することができました。これを励みに、今後は統計検定の級別試験にも挑戦しようと考えています。

パソコンやインターネットの普及・発展等で、誰でも容易に統計を収集したり、利用したりする機会が増えており、統計の重要性はますます増していると思います。その一方で、調査結果に対しての誤った分析・判断、統計調査への非協力といった問題も見られます。この統計検定が、子どもからお年寄りまで年代を問わず広がり、統計リテラシーの向上につながればと期待しています。

6. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします。（1）氏名（2）学位の名称（3）取得大学（4）論文題名（5）主査または指導教員（6）取得年月の順に記載いたします。（敬称略）

博士論文

- （1）中島上智（2）統計学博士（3）デューク大学（4）Bayesian Analysis of Latent Threshold Models（潜在閾値モデルのベイズ分析）（5）Mike West（6）2012年12月
- （1）生亀清貴（2）博士（理学）（3）東京理科大学（4）Orthogonal decompositions and measure of models for analysis of contingency tables（5）富澤貞男（6）2013年3月
- （1）Mohammad Manir Hossain Mollah（2）博士（農学）（3）東京大学（4）Robust inference and model diagnosis of microarray data by β -likelihood（5）岸野洋久（6）2012年9月

- （1）Sumi Sirajum Monira（2）博士（情報工学）（3）九州工業大学（4）Hybrid Ensemble Modeling with Application to Hydrological Forecasting（5）廣瀬英雄（6）2013年3月
- （1）西田 豊（2）博士（人間科学）（3）大阪大学（4）教師なし分類学習に関する計量心理学的研究（5）足立浩平（6）2013年3月
- （1）Heewon Park（2）博士（理学）（3）中央大学（4）Robust Regression Modeling via L1 Regularization（5）小西貞則（6）2013年3月
- （1）金 大柱（2）博士（機能数理学）（3）九州大学（4）Nonlinear Regression Modeling via Adaptive Basis Expansions（5）二宮嘉行（6）2013年3月
- （1）本橋永至（2）博士（学術）（3）総合研究大学院大学（4）ベイジアンモデリングによる市場反応分析（5）樋口知之（6）2013年3月
- （1）高橋 翔（2）博士（理学）（3）東京理科大学（4）Multiple comparison procedures among

mean vectors in high-dimensional data and simultaneous tests for independence (5) 瀬尾 隆 (6)2013年 3 月

- (1) 榎本理恵 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On the asymptotic distributions of multivariate normality test statistics based on sample moments (5) 瀬尾 隆 (6)2013年 3 月
- (1) 世古規子 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Some tests for mean vectors and simultaneous confidence intervals with two-step monotone missing data (5) 瀬尾 隆 (6)2013年 3 月
- (1) 片山翔太 (2) 博士 (理学) (3) 大阪大学 (4) Statistical Inference Concerning a High-Dimensional Mean Vector (5) 狩野 裕 (6)2013年 3 月
- (1) 山本倫生 (2) 博士 (理学) (3) 大阪大学 (4) Exploratory Analysis of Multivariate Functional Data Using Dimension-Reduction and Clustering Approaches (5) 狩野 裕 (6)2013年 3 月
- (1) 山口祐介 (2) 博士 (工学) (3) 大阪大学 (4) Meta-analysis Methods Based on Simulated Individual Patient Data (5) 下平英寿 (6)2013年 3 月

修士論文

- (1) 吉田英里 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On measure of proportional reduction in error for two-way contingency tables with ordinal categories (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 村上翔太 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Point-symmetry models and decomposition for collapsed square contingency tables (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 石原拓磨 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Bivariate t-distribution type symmetry model for ordered square contingency tables (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 川崎協 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Asymmetry measure on marginal homogeneity

for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月

- (1) 菊池宏和 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Improved power-divergence-type measure of departure from diagonals-parameter symmetry for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 新城領太 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Improved index of departure from extended marginal homogeneity in square contingency tables (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 鈴木雅人 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Incomplete marginal homogeneity model for square contingency tables (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 関口和哉 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Local subsymmetry models for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 関谷佑太 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Improved measure of departure from extended marginal homogeneity for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 田中洋之 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Improved approximate unbiased estimators of measures of marginal homogeneity for square contingency tables (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 中野真登 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Wald test statistic for cumulative diagonals-parameter symmetry model in square contingency tables (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 眞嶋健太郎 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Distance measure of departure from cumulative linear diagonals-parameter symmetry for square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男 (6)2013年 3 月
- (1) 坂本光平 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) 有限ユークリッド幾何を用いた LDGM 符号の構成 (5) 宮本暢子 (6)2013年 3 月

- (1) 芹澤良輔 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Generalized orthogonal array による (t,m,s)-net の構成 (5) 宮本暢子 (6) 2013年 3 月
- (1) 島田勇希 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) LDPC 符号の構成に用いる Difference Family の基礎ブロックの探索 (5) 宮本暢子 (6) 2013年 3 月
- (1) 地寄頌子 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Classification of difference system of sets from lines in PG (4,2) (5) 宮本暢子 (6) 2013年 3 月
- (1) 川崎祐亮 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 金融データを用いた変化点検出と構造変化検定の比較 (5) 森本孝之 (6) 2013年 3 月
- (1) 山内海渡 (2) 修士 (理学) (3) 関西学院大学 (4) 時系列トピックモデルを用いた株式市場の分析 (5) 森本孝之 (6) 平成25年 3 月
- (1) 安部将成 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) MT 法におけるしきい値設定法の提案と比較 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 秋江一希 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 混合系直交表の性質についての研究 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 服部基紘 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 階層的線形モデル (HLM) の研究とその応用 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 平手良典 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) サッカーにおける Bradley-Terry モデルの適用法の研究 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 近藤佑亮 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 相関係数行列の行列式に基づいた多変量管理図の研究 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 三品光平 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 文章の書き手の同定における分類法の精度検証の研究 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 水野裕太 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 2つの比率の差の同等性検定の正確な評価 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 谷口純一 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) グラフィカルモデリングの解析支援ソフトに関する研究 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 東崎祥也 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 3水準系の実験計画法のフリーソフトウェアの研究 (5) 指導教員: 木村美喜 (主査), 松田眞一 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 阿部智成 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) ロバスト・リッジ回帰の研究 (5) 松田眞一 (主査), 木村美喜 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 暮石一樹 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 回帰における多重共線性と外れ値に関する研究 (5) 松田眞一 (主査), 木村美喜 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 室梅秀平 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) プーストラップ法とそのロバスト推定への応用 (5) 松田眞一 (主査), 木村美喜 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 沖 翔太 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 汚れのあるデータとロバスト推測 (5) 松田眞一 (主査), 木村美喜 (指導教員) (6) 2013年 2 月
- (1) 田 昆鵬 (2) 修士 (経済学) (3) 名古屋市立大学 (4) 事業投資判断に関わる RNPV ロジットモデルの基礎的検討ー火力発電設備投資を題材にー (5) 三澤哲也 (6) 2013年 3 月
- (1) 尾林千恵 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立大学 (4) ロジスティック・モデルにおける2次漸近許容性について (5) 栗木進二 (主査), 田中秀和 (指導教員) (6) 2013年 3 月
- (1) 福井匠 (2) 修士 (工学) (3) 大阪府立大学 (4) 超高次元データに対するスパース Cox 回帰モデリングとその応用 (5) 栗木進二 (主査),

川野秀一（指導教員）(6)2013年3月

- (1) 藤本康浩 (2) 修士（工学）(3) 大阪府立大学 (4) シミュレーション研究に基づくスペクトル拡散通信における諸方式の比較 (5) 栗木進二（主査）, 川野秀一（指導教員）(6)2013年3月
- (1) 今井沙也可 (2) 修士（理学）(3) 中央大学 (4) 多変量回帰モデルにおける説明変数の選択と予測区間の構成 (5) 酒折文武 (6)2013年3月
- (1) 柳澤圭介 (2) 修士（理学）(3) 中央大学 (4) 動的ノンパラメトリックベイズモデルにおける変分ベイズ推定 (5) 酒折文武 (6)2013年3月
- (1) 西本篤史 (2) 修士（数理学）(3) 九州大学 (4) カーネル型推定量のジャックナイフ分散推定量によるスチューデント化と正規近似の改良 (5) 前園宜彦 (6)2012年9月
- (1) 柳瀬孝二郎 (2) 修士（数理学）(3) 九州大学 (4) モデル化した分散を持つ線形回帰モデルの評価と宇宙天気への応用 (5) 西井龍映 (6)2013年3月
- (1) 沢津橋広平 (2) 修士（数理学）(3) 九州大学 (4) ランダム効果モデルのプロフィール分析について (5) 百武弘登 (6)2013年3月
- (1) 上田謙吾 (2) 修士（数理学）(3) 九州大学 (4) 誤差分散の異なるランダム効果モデルのパラメータ推定について (5) 百武弘登 (6)2013年3月
- (1) 梅津佑太 (2) 修士（数理学）(3) 九州大学 (4) 確率場を用いた判別分析と最適計画法 (5) 二宮嘉行 (6)2013年3月
- (1) 村上晋也 (2) 修士（数理学）(3) 九州大学 (4) 複数のQTLを検出するための多重検定法の開発 (5) 二宮嘉行 (6)2013年3月
- (1) 川添光祐 (2) 修士（数理学）(3) 九州大学 (4) 無限平均を持つ安定過程の推定 (5) 増田弘毅 (6)2013年3月
- (1) 柳川侑里奈 (2) 修士（数理学）(3) 九州大学 (4) 回帰モデルにおけるCauchy擬似最尤推定 (5) 増田弘毅 (6)2013年3月
- (1) 山下春香 (2) 修士（理工学）(3) 成蹊大学

(4) ノンコンプライアンスの下での平均因果効果の推定 (5) 岩崎 学 (6)2013年3月

- (1) 奥山愛美 (2) 修士（理学）(3) 東京理科大学 (4) A Power Comparison of Test Statistics for Mean Vector in High-dimensional Data (5) 瀬尾 隆 (6)2013年3月
- (1) 川崎玉恵 (2) 修士（理学）(3) 東京理科大学 (4) A Two Sample Test for Mean Vectors with Unequal Covariance Matrices (5) 瀬尾 隆 (6)2013年3月
- (1) 篠崎 絢 (2) 修士（理学）(3) 東京理科大学 (4) Test for Equality of Pairs of Mean Vectors and Simultaneous Confidence Intervals in Elliptical Distributions (5) 瀬尾 隆 (6)2013年3月
- (1) 澄川琢磨 (2) 修士（理学）(3) 東京理科大学 (4) Measures of Multivariate Skewness and Kurtosis in High-dimensional Framework (5) 瀬尾 隆 (6)2013年3月
- (1) 三谷知海 (2) 修士（理学）(3) 東京理科大学 (4) Interval Estimation for Error Probability of Linear Discriminant Rule in High-dimensional Data (5) 瀬尾 隆 (6)2013年3月
- (1) 大矢修司 (2) 修士（工学）(3) 大阪大学 (4) 回帰問題におけるANN, SVM, RVMでのシミュレーションによる性能比較 (5) 熊谷悦生 (6)2013年3月
- (1) 鎌田亜美 (2) 修士（工学）(3) 大阪大学 (4) 正則化法に基づく高次元因子分析モデルの推定 (5) 狩野 裕 (6)2013年3月
- (1) Zhang Keyan (2) 修士（工学）(3) 大阪大学 (4) Test for linearity with spline smoothing (5) 坂本 亘 (6)2013年3月
- (1) 土田友里恵 (2) 修士（工学）(3) 大阪大学 (4) Regular Variationに基づいたdownside risk measuresの比較 (5) 熊谷悦生 (6)2013年3月
- (1) 李 夢然 (2) 修士（工学）(3) 大阪大学 (4) 非線形混合効果モデルにおけるブートストラップ検定 (5) 坂本 亘 (6)2013年3月
- (1) 伊藤雅晃 (2) 修士（工学）(3) 大阪大学 (4) シミュレーションによる拡散過程パラメー

タ推定量の数値比較 (5)内田雅之 (6)2013年3月

- (1)北川隼人 (2)修士 (工学) (3)大阪大学 (4)確率微分方程式に対する検定統計量の漸近的性質 (5)内田雅之 (6)2013年3月

- (1)満 淳一 (2)修士 (工学) (3)大分大学 (4)空間スキャン法におけるウィンドウの作成とp-値の算出に関する研究 (5)和泉志津恵 (6)2013年3月

- (1)薮田真哉 (2)修士 (工学) (3)大分大学 (4)Multiple Imputation using Chained Equations

における擬似完全データセット数の設定に関する研究 (5)和泉志津恵 (6)2013年3月

- (1)北川淳一 (2)修士 (理学) (3)慶應義塾大学 (4)階層ベイズモデルを用いたメンフクロウの餌乞い行動の解析 (5)南美穂子 (6)2013年3月

- (1)小椋 亮 (2)修士 (工学) (3)慶應義塾大学 (4)周期的3次スプライン平滑法におけるREMLとGCVを用いた平滑パラメーター推定法の比較 (5)南美穂子 (6)2013年3月

7. 第2回通常理事会・委員会報告

通常理事会報告

日時：2013年2月9日(土)12:05-12:30

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス
会議室

出席者：

理事：竹村彰通会長，岩崎学理事長，上野玄太（庶務），西郷浩（庶務），大野忠士（会計），青嶋誠（会誌編集・和文），勝浦正樹（大会）（以上7名，カッコ内は役割分担）

監事：矢島美寛，美添泰人（以上2名）

オブザーバー：竹内恵行，山本渉

＜第1議案＞臨時委員会に関する件

岩崎理事長より，質保証委員会，基準委員会の各臨時委員会の委員を次のように定めるとの提案があり，承認された。

- ・質保証委員会（任期2013.1.1～2013.12.31）：竹村彰通（委員長），岩崎学（副委員長），今泉忠，田村義保，舟岡史雄，渡辺美智子，山本 拓，伊藤彰彦，田栗正章
- ・基準委員会（任期2013.1.1～2013.12.31）：田栗正章（委員長），今泉忠，岩崎学，岡太彬訓，折笠秀樹，竹村彰通，田村義保，椿広計，西村圭一，林篤裕，水田正弘，山口和範，渡辺美智子，美添泰人，藤井良宜

＜第2議案＞2013年度事業計画について

岩崎理事長より，資料に基づき，2013年度事業計画について提案があり，承認された。

＜第3議案＞2013年度予算について

岩崎理事長より，資料に基づき，2013年度予算について提案があり，大野会計担当理事による補足説明の後に協議し，一部修正の上承認した。

＜第4議案＞会員の入退会

上野庶務担当理事より提示された回覧資料に基づき，内容を承認した。

＜第5議案＞臨時社員総会召集の件

1. 日時 2013年3月2日(土) 午後6時15分から
2. 場所 学習院大学 東2号館13階 第一会議室
3. 会議の目的事項
(1) 社員総会における通常の審議

＜第6議案＞被選代議員会召集の件

1. 日時 2013年3月2日(土) 臨時社員総会終了後（午後7時30分ごろから）
2. 場所 学習院大学 東2号館13階 第一会議室
3. 会議の目的事項

- (1) 会長候補者の選出
- (2) 被選理事長の選出

委員会報告

日時：2013年2月9日（土）12：30－14：30

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス
会議室

出席者：竹村彰通会長，岩崎学理事長，上野玄太，
西郷浩，大野忠士，小林正人，青嶋誠，勝浦正
樹，矢島美寛，美添泰人，竹内恵行，山本渉

<報告事項>

1. 欧文誌委員会

小林委員長より，(1) Vol.42, No.2 (2012年12月発行予定) がもうすぐ発行されること，(2) 一時的に減少していた投稿数が回復してきていること，が報告された。引継ぎの方法について質問があり，前任者からは投稿論文の受理・審査の進行過程を示した表によって引継いだとの回答があった。

2. 和文誌委員会

青嶋委員長より，第42巻2号（2013年3月発行予定）の進捗状況などについて報告があった。

3. 大会委員会

勝浦委員長より，資料に基づき，2013年度統計関連学会連合大会のプログラム委員会と運営委員会の決定事項などについて報告があった。国際交流については，2013年度の担当が韓国統計学会であり，11月に開催予定であることが報告された。企画セッションの締切が3月5日であり，日本統計学会の会長講演と各賞受賞者講演のため，岩崎理事長がオーガナイザーとして申し込むことを確認した。

4. 企画・行事委員会

山本委員より，(1) 春季集会の大学間連携事業（JINSE）のセッションにおいて予定されていた講演のひとつがキャンセルされたこと，(2) その

セッションが，JINSE との共催になったこと，
(3) 春季集会のための学会からの支出が40万円程度になること（ポスターセッション参加者の旅費を除く），などが報告された。

5. 庶務委員会

上野委員長より，研究部会の応募がなかったことと，雑誌「統計」の講読希望者がこれまでに10数名ほどあったことが報告された。また，資料に基づき，会長・理事長・理事・監事選任の日程・手順などについて報告があった。

大野委員より，ISI 東京大会記念基金として約6,300万円が学会に入金され，専用の通帳で管理していることが報告された。

6. 広報委員会

竹内委員より，会報153号を発行したことが報告された。学会メーリングリストの利用規程について最近の事例が報告され，意見交換をおこなった。

7. 表彰委員会

竹村委員長より，会長が推薦する選考委員として田中豊氏と藤井光昭氏を推薦することが報告された。

8. その他

なし。

<審議事項>

1. 欧文誌委員会

小林委員長より，JSTAGE が，pdf を掲示するだけの従来のスタイルから，E-Journal 化を目指したスタイルへと刷新され，とくに断らない限り，DOI も自動的に割り振られるようになることが報告された。学会欧文誌のプラットフォームとして，プロジェクトユークリッドと JSTAGE のどちらにするのかについて協議した。その結果，ひとまずは JSTAGE から割り振られる DOI を利用できるようにしておき，将来，どちらを選ぶかを

検討することとした。

2. 和文誌委員会

審議事項なし。

3. 大会委員会

審議事項なし。

4. 企画・行事委員会

岩崎理事長より、2014年6月30日・7月1日に台湾で開催されるIMS-APRMの主催者から狩野委員長あてにdistinguished lecturerを1名とinvited paper sessionのオーガナイザー3名を推薦するよう依頼があったことを受けて竹村会長をdistinguished lecturerとして推す提案があり、了承された。

5. 庶務委員会

審議事項なし。

6. 広報委員会

審議事項なし。

7. その他

(a) 統計検定合格者への対応について

岩崎理事長より、将来の統計家を育てるという観点から、2012年度RSS合格者と統計検定1級合格者に、1年間、学会メーリングリストへの加入を認めて会報を送付する提案があり、前向きに検討することとした。さらに、両試験の上位合格者については、春季集会での表彰なども検討することとした。

(b) ISI東京大会記念基金の運用について

竹村会長より、資料に基づき、ISI東京大会記念基金の運用について説明された。美添監事(旧運営委員会委員)より、補足説明があった。協議の結果、(1)運営委員会は、日本統計学会の理事会が推薦する竹村彰通(会長)と岩崎学(理事長)、美添泰人(前会長)、椿広計、西郷浩、および総務省政策統括官室の推薦する渡辺秀一と北田祐幸の7名で構成すること、(2)事務局機能の業務委託については運営委員会に一任すること、(3)今後の管理・運営の方向を明確にするため早急に第1回運営委員会を開催すること、が了承された。

8. 臨時社員総会報告

日時：2013年3月2日(土) 18:25-19:30

場所：学習院大学東二号館13階第1会議室

出席者：竹村彰通会長、代議員：岩崎学、大森裕浩、狩野裕、鎌倉稔成、栗木哲、桑原廣美、西郷浩、竹内光悦、竹田裕一、田村義保、垂水共之、椿広計、樋口知之、藤井良宜、舟岡史雄、槇田直木、美添泰人、吉田朋広、渡辺美智子(以上19名、委任状提出10通、議決権行使書8通)(オブザーバー：上野玄太、大野忠士)

冒頭、竹村会長より定足数確認後、開会宣言がなされ、オブザーバー2名の出席が承認された。また、竹村会長より議事録署名人として栗木哲、田村義保、両代議員が提案され、承認された。

審議事項

<第1議案>会長選挙規程の変更、質保証推進委員会運用規則の制定に関する件一定款細則第6条3

竹村会長より、資料に基づき、会長選挙規程の変更(第5条「選挙権者は、投票用紙送付時において、正会員または名誉会員でなければならない」を追加する)と質保証推進委員会運用規則(定時社員総会で再提案が要請された)の制定について提案があり、承認された。

<第2議案>学会賞各賞の選考委員に関する件一学会賞各賞規定「選考方法」

竹村会長より、会長の推薦する選考委員として

田中豊氏および藤井光昭氏を推薦することの提案があり、承認された。

報告事項（理事会報告）

1. 2013年度事業計画

岩崎理事長より、資料に基づき、2013年度事業計画について報告があった。

2. 2013年度予算

岩崎理事長より、資料に基づき、2013年度予算について報告があった。

3. 会員の入退会

岩崎理事長より、回覧資料に基づき、会員の入退会について報告があった。

4. その他

竹村会長より、資料に基づき、ISI 東京記念基金運営委員会設置の経緯と、基金の活用方法に関する要項について定時社員総会に提案する予定であることとの報告があった。

報告事項（委員会）

1. 常設委員会の委員長および委員の交代および追加について

岩崎理事長より、以下のとおり委員の交代について報告があった。

大会委員会

奥村英則委員より田畑耕治委員に交代

(2012.10.1付け)

樋田勉委員より黒住英司委員に交代

(2012.10.1付け)

汪金芳委員より笹田薫委員に交代

(2012.10.1付け)

2. 2013年連合大会について

岩崎理事長より、2013年連合大会について報告があった。

3. 2013年春季集会について

岩崎理事長より、2013年春季集会について報告があった。

4. 日本統計学会各賞について

岩崎理事長より、日本統計学会各賞の推薦締切が2013年4月5日であるとの報告があった。

5. その他

その他の報告事項なし。

報告事項（その他）

1. 学会活動特別委員会

岩崎理事長より、とくに報告事項がないとの報告があった。

2. 学会組織特別委員会

狩野代議員（委員長）より、とくに報告事項がないとの報告があった。

3. 統計教育委員会

藤井代議員（委員長）より、資料に基づき、2012年度活動報告が示された。

4. ベイズ分析研究分科会（2010年11月発足、繁桝算男主査）

岩崎理事長より、繁桝主査の提出した資料に基づき、2011年－2012年活動報告が示された。

5. 統計教育分科会（2010年12月発足、竹内光悦主査）

竹内代議員（主査）より、資料に基づき、2011年－2012年活動報告が示された。

6. 計量経済・計量ファイナンス分科会（2010年12月発足、永井圭二主査）

永井主査より、資料に基づき、2011年－2012年活動報告が示された。

2013 年度事業計画

(2013. 4. 1～2014. 3. 31)

I. 出版編集事業

1. 欧文誌の発行

欧文誌 2 号 [Vol. 43 No. 1 (6 月), No. 2 (12 月)] を発行する。

アーカイブのオンライン公開を行う。

2. 和文誌の発行

和文誌 2 号「第 43 巻シリーズ」第 1 号 (9 月), 第 2 号 (3 月)] を発行する。

第 43 巻 1 号では Big Data に関する特集を組む。

アーカイブのオンライン公開を行う。

3. 会報の発行

No. 155 (4 月), No. 156 (7 月), No. 157 (10 月), No. 158 (1 月) を発行する。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 81 回大会の開催

2013 年 9 月 8 日～11 日の 4 日間にわたり, 大阪大学豊中キャンパスにおいて開催する。

統計関連学会連合大会の一環として開催する。

2. 春季集会の開催

2014 年 3 月上旬に第 8 回春季集会を開催する。

3. 研究部会の活動

2014 年度より活動を開始する部会を募集する。

4. 研究分科会の活動

現在, 活動中の以下の分科会に加え, 新規に活動を開始する分科会を随時募集する。
「スポーツ統計分科会」(田村義保主査: 2009 年 6 月発足, 2013 年 5 月終了予定)
「金融の計量リスク管理分科会」(三浦良造主査: 2009 年 9 月発足, 2013 年 8 月終了予定)
「ベイズ分析研究分科会」(繁榎算男主査: 2010 年 11 月発足, 2014 年 10 月終了予定)

定)

「統計教育分科会」(竹内光悦主査: 2010 年 12 月発足, 2014 年 11 月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(永井圭二主査: 2010 年 12 月発足, 2014 年 11 月終了予定)

5. 「統計検定」の実施

日本統計学会が主体となり, (財) 統計研究会および (財) 統計情報研究開発センターとの共催事業として「統計検定」を実施する。

6. 統計関連学会連合の事業推進に協力する。

7. 国際学会, 国際シンポジウムに協力する。

8. 会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため, 以下の賞を会員等に授与する。

第 18 回日本統計学会賞

第 9 回日本統計学会統計活動賞

第 9 回日本統計学会統計教育賞

第 7 回日本統計学会研究業績賞

第 6 回日本統計学会出版賞

第 27 回日本統計学会小川研究奨励賞

2. 各種委員会の活動

年 2 回社員総会を開催する。

年 4 回理事会を開催する。

その他の各種委員会を適宜, 開催する。

3. 広報活動の充実

メールマガジンの使用やホームページの充実により, 各種情報発信を促進する。

英文のホームページを充実させる。

4. 入会者の拡大

春季集会等の機会を利用し, 若手の研究者の拡大を促進する。

統計検定の合格者を対象とし, 統計利用者の拡大を促進する。

准会員 (仮称) について検討する。

一般社団法人 日本統計学会 2013年度 予算書

(2013年2月9日)
(単位 千円)

	13年度予算	12年度予算	11年度決算	備考
I. 事業活動収支の部	1	163	2,565	
1. 事業活動収入	19,285	14,585	19,830	
会費収入	10,900	10,900	10,600	
名譽会員・正会員	10,000	10,000	9,699	
学生会員	200	200	225	
波及請求分	700	700	676	
賛助人会費	890	890	1,010	
団体会員費	240	240	240	
科学研究費補助金	500	800	800	
雑収入	1,405	1,405	1,748	
会誌購読料	700	700	580	
利子収入	5	5	3	
広告収入	700	700	715	
その他	0	0	449	過年度統計検定関係回収
経済学会連合会補助金	0	0	0	
名簿作成積立金取り崩し	0	0	600	
60周年記念基金取り崩し	350	350	3,332	統計検定関係拠出金1,500、貸出金1,500 学会活動等332
75周年記念基金取り崩し	0	0	0	
財団法人情報研究開発センター助成金	0	0	1,500	統計検定関係(拠出金向け1,500)
ISI基金取り崩し	5,000	-	-	
2. 事業活動支出	19,284	14,422	17,265	
印刷費	7,670	7,650	8,453	
会誌(43巻1,2号, 43-No.1,2)	6,300	6,300	6,837	
会報(155-158号)	750	750	713	
名簿印刷費	20	0	411	
その他	600	600	493	会誌・会報の封筒作成、大会冊子等
大会開催費	900	900	900	
春季集会開催費	600	600	565	
各賞運営経費	300	300	279	懇親会招待、表彰状、副賞
出版賞費	0	0	0	
その他	0	0	56	
研究部会費	300	300	0	
研究分科会費	100	100	100	
学会運営会合費	230	230	182	
代議員会(社員総会)	70	70	54	
特別委員会	20	20	79	
統計教育委員会	20	20	0	
会誌編集委員会	20	20	0	
理事会	100	100	49	
事務費	340	340	276	
一般事務人件費	20	20	5	
校正編集事務人件費	170	170	78	
発送事務人件費	80	80	87	
事務用品	40	40	22	
事務室借料	0	0	0	
その他	30	30	83	事務員の交通費等
学会事務業務委託費	2,592	2,340	2,592	
通信・郵送費	1,560	1,550	1,588	
会誌送料	700	700	686	
会報送料	450	450	458	
名簿送料	10	0	68	
その他通信・郵送料	400	400	377	
役員旅費補助	150	200	0	
各種分担金	150	150	150	
日本経済学会連合	35	35	35	
国際統計協会ISI	25	25	25	
横幹連合	50	50	50	
統計関連学会連合	40	40	40	
ネットワーク維持費	42	12	12	ドメイン使用料、学会サーバー委託費、Web名簿維持費
国際交流促進費	250	350	0	
名簿作成積立金	0	300	0	
統計検定関係費	0	0	0	
一般財団法人統計質保証推進協会宛拠出金	0	0	3,000	
租税公課	0	0	12	
世界統計会議(ISI)派遣補助	5,000	-	-	ISI基金目的使用
II. 投資活動収支の部	0	0	▲ 4,500	
投資活動収入	0	0	0	
投資活動支出	0	0	4,500	一般財団法人統計質保証推進協会宛貸付金
III. 予備費	3,000	3,000	0	

予算管理上、予算・決算とも特定財産を除くベース。

7. マスタープランについて

樋口代議員より、資料に基づき、日本学術会議の学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープランの内容と数理学の動向について説明があり、他の数理系機関と協同して統計数理研究所がマスタープランに応募することに理解を求めるとの報告があった。竹村会長と代議員から賛意が示された。

8. 次回日程等

竹村会長より、2013年度定時社員総会を2013年6月15日(土) 13:30より早稲田大学7号館1階ファカルティラウンジ奥ミーティングルームにて開催するとの報告があった。

9. その他

なし。

9. 被選代議員会報告

日時：2013年3月2日(土) 19:40-20:30

場所：学習院大学東2号館13階第1会議室

出席者：竹村彰通(会長、被選代議員)被選代議員：青嶋誠、会田雅人、岩崎学、大森裕浩、狩野裕、鎌倉稔成、栗木哲、西郷浩、佐藤朋彦、佐藤美佳、神保雅一、竹内光悦、田中豊、田村義保、椿広計、中野純司、西井龍映、樋口知之、福井武弘、舟岡史雄、前園宜彦、楨田直木、美添泰人、矢島美寛、吉田朋広、渡辺美智子(以上、27名)、上野玄太(庶務理事、選挙管理委員)

冒頭、竹村会長より被選代議員の出席者および選挙管理委員の確認後、開会宣言がなされた。また、竹村会長より議事録署名人として栗木哲、田村義保、両被選代議員が提案され、承認された。

審議事項

＜第1議案＞会長候補者の選出に関する件－会長選挙規程第3条

上野庶務理事より、資料に基づき、被選代議員会による会長候補者選出方法について(会長選挙規程第3条より抜粋)および歴代会長について説明された後、提出された会長候補者推薦理由書が提示された。投票の結果、国友直人会員を会長候補者とすることを決定した。

＜第2議案＞被選理事長の選出に関する件－役員選任規程第2条

上野庶務理事より、資料に基づき、被選代議員会による被選理事長の選出方法について(役員選任規程第2条より抜粋)について説明があり、被選代議員名簿が提示された。投票の結果、鎌倉稔成被選代議員を被選理事長とすることを決定した。

報告事項

1. 次回日程等

竹村会長より、2013年度臨時社員総会が2014年3月に予定されているとの報告があった。

10. 研究集会案内

第3回 IMS-APRM のご案内

狩野 裕(大阪大学)

2012年7月につくば市で開催された第2回

IMS-APRMに参加なさった方も多いと思います。第3回の同会議は2014年6月30日～7月3日に台北(台湾)のHoward International Houseにおいて開催されます。アジアと環太平洋地域(Asia

Pacific Regional Meeting) を中心とする研究者間のコミュニケーションや共同研究を推進することを目的に Institute of Mathematical Statistics が主催する国際会議で、統計学と確率論の様々なトピックを扱います。ぜひ、ご参加・ご講演をお考え下さい。以下に各種締切と問い合わせ先を記します。

2013/9/15 招待講演セッション提案締切

(Open-competition Invited Talk Session)

2013/10/31 企画セッション提案締切

(Topic-contributed Talk Session)

2013/11/15～2013/12/31 一般講演申し込み

問合わせ先

Byeong U. Park (bupark@stats.snu.ac.kr)

Feifang Hu (fh6e@virginia.edu) .

Yutaka Kano (kano @ sigmath.es.osaka-u.ac.jp)

参考 URL

<http://www.ims-aprm2014.tw/>.

<http://www.ims-aprm2012.org/>

<http://intl-house.howard-hotels.com/>

田口玄一博士一周忌追悼シンポジウムー統計科学から見たタグチメソッドの現在・過去・未来ーのご案内

黒木 学 (統計数理研究所)

【講演内容】(予定) :

「実験計画法・タグチメソッドの活用」立林和夫
(元・富士ゼロックス)

「米国におけるタグチメソッドの変遷」田口伸
(American Supplier Institute, Inc)

「田口玄一先生と科学的管理法ータグチメソッドの発想を遡るー」竹内恵行 (大阪大学)

「累積和, 2 方向累積和, 2 重累積和統計量の理論と応用」広津千尋 (明星大学)

「精密累積データのセミパラメトリックポアソンモデル」椿広計 (統計数理研究所)

「MT システムの諸問題と改良手法」永田靖 (早稲田大学)

【開催日時】: 平成25年 5 月13日(月)

9 : 30～17 : 10

【開催場所】: 筑波大学東京キャンパス134講義室

【主 催】 統計数理研究所サービス科学研究センター, リスク解析戦略研究センター

【共 催】 日本統計学会, 応用統計学会, 日本品質管理学会, 統計関連学会連合, 筑波大学ビジネスサイエンス系・大学院ビジネス科学研究科

【協 賛】 品質工学会, 日本品質管理学会テクノメトリックス研究会

【参加費】 無料

【定 員】 150名

【詳 細】 統計数理研究所サービス科学研究センターのホームページ

(<http://noe.ism.ac.jp/service-center/>) をご覧ください

【問い合わせ】 シンポジウム事務局

(taguchi.sympto@gmail.com)

11. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●白石高章著『統計科学の基礎ーデータと確率の結びつきがよくわかる数理』日本評論社, 2012年

10月, 2940円 (税込)

内容紹介: 記号論理学の基本をとり入れながら確率論を解説し, 正規分布の下でのパラメトリック法, ノンパラメトリック法, 比率モデルとポアソンモデルの解析などを論述している。

12. 横幹連合のご紹介

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）

会長 出口 光一郎

日本統計学会様には、横幹連合にご参加いただき、誠にありがとうございます。おかげさまで、2013年度に発足10周年を迎えます。横幹連合では、多様な研究者の方々に横断的な意見、情報交換を行っていただく機会などを設けております。そうした機会をこちらの紙面をお借りして、ご紹介させていただきます。貴学会の皆様におかれても、横幹連合の取り組みをご覧いただき、是非、ご利用いただければ幸いです。

1. 横幹連合とは？

横幹連合は文理にわたる学会の集まりです。自然科学とならぶ技術の基礎である「基幹科学」の発展と振興をめざしています。限りなくタテに細分化されつつある科学技術の現実の姿に対し、「横」の軸の重要性を訴えそれを強化するための活動を行っています。

2. 具体的には、どんな活動？

（1）横幹コンファレンス/シンポジウム

毎年、加盟全学会の主催で交互にコンファレンスとシンポジウムを開催しています。2011年には「21世紀のイノベーション創出に向けた知の統合と知の創造」をテーマとしたコンファレンスが北陸先端大学で、2012年には「横幹技術と日本再生：知の融合で目指す強靱で持続可能な社会」をテーマとしたシンポジウムが日本大学で開催されました。コンファレンスでは加盟学会の会員の方々から130以上の研究報告などが行われ、活発な意見交換がありました。

横幹コンファレンス/シンポジウムでの優れた報告（研究者）には、木村賞が授与されます。

2013年には、「異分野の新結合と知の創造」（予定）をテーマとしたコンファレンスが香川大学で開催されます。加盟学会の会員の皆様におかれては、この機会を積極的にご利用いただき、是非、ご参加下さい！

（2）横幹技術フォーラム

横幹技術協議会が年6回開催するフォーラムと連携しています。本フォーラムでは、産学連携の下、文理にまたがる多様なテーマの講演や意見交換が行われています。加盟学会の会員の方々にも多数ご講演いただいています。

（3）会誌「横幹」

年2回、会誌を発行しています。加盟学会の会員の方々に多数の論文等を発表いただいています

（4）政策提言など

上述のほか、科学術政策に関する提言・宣言や学会連携の調査研究会活動などを行い、加盟学会の会員の方々に活躍いただいています。

3. 横幹連合のことをもっと知るには？

横幹連合のウェブサイト（「横幹連合」で検索）を是非、ご覧ください。そして、年4回、加盟学会に電子メールでお送りしている「横幹連合ニュースレター」もご覧ください（ウェブサイトにも掲載）。ニュースレターの「会員学会の横顔」コーナーでは、加盟学会のことを掘り下げてご紹介しています。

日本統計学会の皆様のご参加を心からお待ちしております。

ご不明な点などありましたら、貴学会事務局のほか、横幹連合事務局にご連絡ください。

（横幹連合事務局連絡先）E-mail：office@trafst.jp Tel/Fax：03-3814-4130

ウェブサイト：<http://www.trafst.jp/index.html>

13. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2013年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
(公財)統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表

し、御冥福をお祈り申し上げます。

岡田 宣彦 会員
森田 茂穂 会員
吉澤 正 会員

入会承認

澤正憲, 鈴木雄大, 牧下英世, 吉田拓真 (敬称略)

退会承認

大澤清二, 竹下潤一, 松木伯元 (敬称略)

現在の会員数 (2013年2月9日)

名誉会員	18名
正会員	1,365名
学生会員	56名
総計	1,439名
賛助会員	16法人
団体会員	6団体

14. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介
(1)氏名 (2)学位の名称 (3)取得大学 (4)論文題名 (5)主査または指導教員 (6)取得年月 をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)

- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。
できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒060-0808 北海道札幌市北区北9条西7丁目

北海道大学大学院経済学研究科

鈴川晶夫 宛

E-mail：koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp